

私たちNPO法人音づくり人づくり街づくりは、メイン事業であるメリディアン・マーチングフェスタの企画運営を二〇〇九年より始め、現在八年目を迎えています。

マーチングに取り組み学校や団体の日頃の練習の成果を発表する場として、また、世代を超えた交流を含めた青少年健全育成事業の一環として、マーチング演奏やミニコンサート、全員での合同演奏などに取組み、多くのスタッフやボランティアの協力を得て、今では明石の秋を代表する一大イベントに なっていると自負しています。



参加団体による合同演奏

お問い合わせ先  
実行委員会事務局 山口  
電話 090-5886-5117

中播磨

伝統的な町並み 網干ロマン街道「山本家住宅」

網干歴史ロマンの会  
会長 今栄 進一(姫路市)

シトロなステンドグラスや緻密な寄世木細工の床、大理石をあしらった暖炉。意匠を凝らした和洋折衷の「山本家住宅」は、大正期の網干町長や網干銀行頭取を務めた山本真蔵氏の住まいで、姫路市都市景観重要建築物等第一号です。まちの財産としてこれを守ろうと自治会を中心に立ち上げたのが「網干歴史ロマンの会」です。建物や庭を清掃し、昨年9月からは月2回の一般公開を始めました。



山本家住宅開館日  
毎月第一・三日曜日

お問い合わせ先  
あほしまち交流館  
電話 079-255-8001

ースとして発信するとともに、小学生の課外授業や中学生ガイド育成に取り組み、郷土の魅力が次世代に伝えていきたいと思います。

但馬

楽しいが人と人のつながりを創り、動きを創る

あさごぜる 馬袋 真紀(朝来市)

若者が楽しいと思える場所が無いのなら自分たちでつくってしまおう！と、始まったオープンスペースづくり。誰もが気軽に集い、そこで自分たちが実現したいことが実現できる空間づくりを。

空き倉庫を、自分たちで土壁塗りや板壁を貼るDIY体験会を開催。そうすると、面白そうだと口コミで市内外から多くの参加者があり、人と人とのつながりが広がった。さらには、自分たちが手がけた場所としての愛着もわき、「ここ」でこんなことがしたい！と一人ひとりの夢の実現に向けて動きが始まる場所にもつながった。



若者が集いオープンスペースをDIYする

お問い合わせ先  
Facebook「あさごぜる」  
のメッセージまで

淡路

慶野松原「かがり火コンサート」

慶野松原活性化協議会  
代表 中村 尚之(南あわじ市)

名勝 慶野松原では毎年秋の日の夕方、「地域の魅力づくり」、「にぎわいづくり」などをめざす「かがり火コンサート」が開催されています。コンサートは、地域の有志や団体で組織する「慶野松原活性化協議会」の主催で、「松帆地域づくり協議会」や地域の方々の支援を得ながら開催されており、昨年で八回目となりました。



コンサートの様子  
(平成28年9月24日)

お問い合わせ先  
国民宿舎 慶野松原荘  
電話 0799-36-3391

の清掃活動、「松の植樹活動」などで慶野松原の環境保全に取り組みている団体の支援も行っています。

県民運動情報「ネットワーク」

「こころ豊かな美しい兵庫」をめざして

特集

「地域ぐるみで目指そう！ふるさとの元気」

編集発行 こころ豊かな美しい兵庫推進会議(兵庫県企画県民部県民生活課内)  
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 Tel 078-362-3136



愛称: ココロン

自己紹介・移住のきっかけ

**出町** 奈良県出身で、関西大学の建築学科を出てから、丹波市に関わる機会があり、それから今まで十年ほど、空き家の再生などを通じて地域の方々と一緒に様々な活動に取り組んでいます。佐治倶楽部という団体を立ち上げていますが、そもそもきっかけは、関西大学佐治スタジオという場所を空き家を使って設けたことです。その活動をしなから、今は本業のデザイン関係の建築の設計や企画をしています。



出町 慎さん

**知事** 空き家の再生事業は多いですが、佐治地域では三軒の空き家を改修しました。  
**知事** 改修したら空き家じゃなくなるんですね。  
**出町** 大学が様々な授業を行うサテライトとして使っている所もあるんですけど、学生が来るのは夏休みなど長期休暇の時だけなので、それ以外の時は、チャレンジスペースと名付けて地域の方々で活用しています。

今回は、地域ぐるみで取り組むふるさとづくりについて、知事と語り合っていました。(平成二十九年二月十日対談)

【出演者】  
佐治倶楽部事務局 淡路市地域おこし協力隊 兵庫県知事  
出町 慎(丹波市)  
横山 史(淡路市)  
井戸 敏三

**知事** 出町さんは丹波に移り住まれたましたが、どうですか。

**出町** いずれは移り住もうと考えていました。きっかけは結婚です。

**知事** 女性の力は強いんですね。横山さんも、元々、淡路島ではないですかね。

**横山** 北海道道東の北見出身です。私も大学は建築学部で、秋田県や北海道で住宅を建てていたので、作るよりもしゃべることや発信することが得意だったので、雑誌社に転向して、新千歳空港のおみやげガイドの創刊編集長などをしました。その後東京の十年間で、コンサル業や飲食店さんのPRなどいろいろな仕事をしましたが、五年前に独立して、淡路島力リーの事業立ち上げに参画しました。地元NPOさんと連携をして、淡路島の玉ねぎを使い、淡路島の工場で作る淡路島力リーというブランドをつくりました。

飲食店にご紹介したり、グラフィックデザイナーとしてメニューやポスターなども作成しました。仕事で淡路島に来て、魅力に惹かれてしまいました。



横山 史さん

**知事** お二人ともそれぞれの地に惹かれ、腰を落着けられたんですね。

**横山** 東京生まれの主人も淡路に…。ご主人も淡路に引き寄せてしまったんですか。

**知事** 出町さんは、日本建築学会の青垣を舞台としたまちづくりのシナリオコンペに応募され、丹波市長賞を受賞されました。このシナリオづくりで佐治に出会われた訳ですが、コンペに応募された特別なきっかけがあったんでしょうか。

**出町** 建築の勉強をしてきたんですが、建築の設計よりは、集落やまちづくりに興味がありました。

**知事** ひとつひとつの建物の設計よりは、その集合体としてのまちやそこに暮らしている人々との関わりに興味があったんですか。

**出町** 関西大学の建築学科にいた時もそういう研究室に所属し、卒業設計の研究のために大学最後の一年間は淡路島にいたんです。一年間、集落調査などをしたことがきっかけで、集落に関わる活動を将来やりたいと思いました。が、当時はそういう仕事が出る環境がなかったんで、自分で仕事をつくらうかなと若気の至りで考えて、就職しなかったんです。その時にこのコンペがあり、応募したのがきっかけです。

## 地域を元気にする活動

**知事** 今、地域おこし協力隊として、どんな活動をされていますか。

**横山** 島つながりて連携しながら東京の方にPRしていくこと、淡路市が東京の丸の内にある佐渡島の特選館の中にスペースをお借りして、二〇一五年七月に淡路島アンテナショップをオープンしました。そこに毎月行き、淡路に興味のある方に直接フェイスツーフェイスで淡路島の魅力を伝える活動をしています。また、渋谷のイベントスペースを借りて、淡路島の食材を食べながら、どうしたら淡路島の観光を楽しめるか話し合ったり、移住に興味がある方の相談にも乗っています。去年のゴールデンウィークにはワーキングホリデーも実施しました。



**知事** どんなワーキングホリデーだったんですか。

**横山** ゴールデンウィークは観光客が多いので、飲食店やお土産屋、トマト農家などでお手伝いをする。観光に来たついでに、働くこと暮らしを体験するという企画です。フェイスブックで募集したところ二日間で二十人の応募があり、十八人の方が淡路島に来ました。**知事** 結構手が挙がるんですね。**横山** 募集の時に「淡路島の方が人手がなくて困っています」と書くと、「私

あとは学生が卒業後も家族を連れて訪れるような仕掛けをつくっていききたいと思っています。

**知事** 第二のふるさとにして欲しいんですね。

**出町** 僕にとっては淡路島も第二のふるさとです。いろんなふるさとのひとつに淡路市がなってくれたらいいなと思います。

## これからの抱負

**出町** 空き家がまだまだ課題だと言われていますが、僕は空き家は資源だと思っています。空き家を使うことでチャレンジしたいことが出来る、いろんな人が関わるきっかけになる。こんなことをやったら地域が、僕たちの暮らしが楽しくなるんじゃないかと、前向きになっていくための資源として活用していきたい。今もそうですが、これからも地域の方々と一緒に取り組んでいけたらうれしいなと思っています。

**知事** 横山さんはいかがですか。

**横山** 地域おこし協力隊は最大任期が3年であと1年残っているんですが、卒業後どうするのとよく聞かれます。淡路島で「株式会社淡路島営業」を立ち上げたいと考えています。まず「食」。東京と淡路を行き来して、飲食店に淡路島の食材をPRする営業活動。次に「人」。求人マッチング中心に淡路島に新しい仕事をつくる。グラフィックデザイナー、カメラマン、コピーライターさんなどが淡路島の企業と一緒に仕事ができるような仕組みもつくっていききたいと思っています。もう一つは「旅」。生産の現場を回るツアーや勉強

でよかったら手伝いますよ」と来てくださった方もいます。ボランティアと観光を楽しみたい、何より地元の方と仲良くなりたい、お友達をつくりたいという方が非常に多かったです。

**知事** 淡路島は去年、日本遺産に指定されました。淡路島に関心を持ってもらえる方は多いですか。

**横山** 淡路島にどうやって行ったらいいのという相談は非常に多いです。SNSなどを活用して、この便で神戸空港に来て、ポートライナーに乗って、何時のバスに乗ると淡路島に来られますというタイムスケジュールと一泊二日のツアープランを発信しています。

**知事** 東京の人は、淡路島にどうやって関心を持つんでしょうか。

**横山** 淡路島は東京からのツアーが少ないので、旅行代理店にもアプローチをしつつ、人対人、多くの方が集まる場所に出かけて淡路島のPRをしたり、企業とコラボレーションをしています。仕事や移住に興味があるなど、接点を持つことを期待して来られる方を増やすことが必要です。日本遺産に関しても「こういう事ですよ」とお伝えすることが大事だと感じています。去年は淡路市の部長と一緒にサンマリノに行きました。ヨーロッパの方が歴史の深さということで日本に、中でも淡路島に興味を持ってくださいました。

**知事** 丹波は何をPRされますか。

**出町** 今、猟師さんとすごく関わる機会が多くて、狩猟文化、山と関わる文化が豊かだなと思います。猟師さんも高齢化して、そういう文化が失われつつあるので、伝えられる方がおられるうちに、山の文化を発信していきたい。

になる、移住のきっかけになるような企画をしていきたいなと考えています。

**知事** 活躍フィールドが広くて、ひとりではやりきれないですね。

**横山** とにかく忙しくてパワフルな人ってよく言われます。

**知事** 定住人口を減らさないという対策も重要ですが、交流人口を増やした方が対心しやすいんです。年間一万人の人口減に対して交流人口を三百六十五万人増やせばイコールですから。お二人に交流人口を増やすための仕掛けをおつくりいただいていることを大変心強く思っています。

**知事** これからの丹波を考えた時、どうやってまちづくりをし、活性化していくといいと思われませんか。

**出町** 三つ思っていることがあるんです。大学の時などに一度外に出て行って、その後、都会で働くのか、地元に戻って働くのかという選択肢をどうやって持ってもらえるか。小中高の時にいかに地域との接点をつくっていくか、地域に対する愛着を持ってもらうかということがすごく重要だと思っています。小中高生が大人と一緒に地域のイベントやまちづくりに参加していく活動を大学生などと一緒にずっとやっていきます。そういう体験をきっかけに、彼らが大きくなった時に「丹波は面白いから丹波に帰りたい」、「都会もいいけど暮らしは丹波だな」と言って帰ってきてもらいたい。



**知事** それで、私たちも期待しているところなんです。ふるさと意識をどこで継続的に持っておいてもらえるか、定年後でもいいんですけど、いつかは錦を飾らなくてもふるさとに帰るという意識を持ってもらうといいんですが。

**知事** 出町さんもフェイスブックやSNS繋がりはあるんですか。

**出町** 僕は全く逆で、ほとんどフェイスブックなどはやらないんです。ローカルに地元で、お便りを毎月だして、こんなことやります、今度空き家を使交流人口というのは観光だけではなく、勉強に来る、少しの期間働きにくる、いろんな形があるはずなんです。その先頭を走っていただいているお二人と今日はお話が出来たことを嬉しく思います。本当にありがとうございます。ありがとうございました。



## 地域団体の紹介

### 阪神南

### 猪名寺忍者学校、地域で育てる、

万葉の里・猪名寺忍者学校運営委員会  
代表 内田 大造（尼崎市）

猪名寺地区は、かつて百人一首にも詠まれた景勝「猪名の笹原」の一部で、今も自然と歴史の宝庫である。

近隣には、万葉の時代を醸し出す「佐璞丘（さぼくがおか）」という小さな森（都市樹林）が残り、これを蘇らせようと長年取り組んだ仲間たちが、この森で「地域の子は、地域で育てる」文化を育もうと、市出身の漫画家が描く人気アニメ「忍たま乱太郎」をヒントに、二年前に忍者学校を開校した。

多くの大人や大学生が見守る中、忍者に扮した地元小学生たちは、年4回、この森や「法光寺」を舞台に、手裏剣、刀づくり、木登りといった普段出来ない



大人が見守る中、木登りを体験する児童たち

〇問い合わせ先  
猪名寺自治会 会長 内田大造  
電話 090-3490-8624